

第9回 地域医療貢献奨励賞 受賞者（平成27年度）

土井 和博	山形県酒田市 酒田市立八幡病院・院長
<p>昭和56年自治医科大学卒。昭和59年4月から川西町立病院に2年間勤務。その後、昭和61年6月からへき地医療機関である町立八幡病院（現在の酒田市立八幡病院）に勤務し、義務年限終了後も、引き続き同病院へ勤務。平成6年4月には同病院の院長に就任し、現在まで29年間にわたり高齢化が進む山形県庄内北部の中山間地域の医療を担う唯一の公的医療機関として大きく貢献している。同病院での外来・入院診療はもとより、救急告示病院としての救急患者への対応、通院困難な高齢者の患者に対する在宅医療や併設する訪問看護ステーションによる訪問看護の実施など、住み慣れた地域で安心した生活が送れるよう、地域の医療福祉との連携に大きく寄与してきた。さらに、平成17年11月の酒田市との市町村合併後は、隣接地区で常勤医師不在である酒田市国民健康保険松山診療所への週3回の医師派遣や県内唯一の離島である飛島の飛島診療所への定期TV電話診療や出張診療にも尽力している。八幡地区内では院長による継続的な診療に安心感を抱く患者やその家族も多く、精神面でも大きな支えとなっている。そのほか、人材育成の面から毎年多数の研修医の地域医療研修を受け入れ、地域医療のあり方や取り組み方の指導・伝達を行い、今後の地域医療の充実へ積極的に注力している。</p>	
岸本 秀文	新潟県妙高市 新潟県立妙高病院・院長
<p>昭和61年自治医科大学卒。卒業後、県立松代病院、県立六日町病院など豪雪山間部のへき地病院を歴任した後、平成16年に生まれ故郷の県立妙高病院に院長として着任。県立妙高病院は常勤医師内科4名、病床60床の地域病院で、この地域は豪雪地域という過酷な気象条件のほか、過疎も進んでおり、周囲に開業医が数名しかいない地域。そういった状況を踏まえ、診療においてはプライマリ・ケアを中心とし、住民のニーズに応える形で在宅医療にも注力してきた。また、それらに関連し、福祉・介護との連携を密にするため、地域の保健師、ケアマネージャー、福祉施設関係者と地域連絡会を通じて、顔の見える関係作りを行った。また、早期がんの発見とターミナルケアを中心としたがん治療等も地域医療に取り入れるなど、通常のプライマリ・ケアの範囲にとどまらない幅広い地域の医療需要に応じている。院長就任前に勤務していた県立中央病院との人間関係を生かし、長期間の両病院の連携関係を構築している。また医師との関係だけでなく、院長就任から数百回に及ぶ（ほぼ毎週開催）院内勉強会を通じ、他の医療スタッフとの関係も粘り強く作り上げてきた。結果として、それぞれがお互いに支え合う優しいネットワークの構築につながっている。地域医療の本質である「支え合いのネットワーク」づくりに注力している。</p>	

金田 道弘	岡山県真庭市 社会医療法人 緑社会・理事長
<p>昭和54年川崎医科大学卒。昭和61年4月の緑社会理事長就任以来、急性期医療を中心とした医療提供体制の充実を図っている。社会医療法人として、真庭保健医療圏および新見市を含む周辺地域の急性期医療の責任を果たすため、職員の協力を得て、当直医以外にも副当直医、呼出医制をとり、最近では原則断らない救急病院として、年間1,000件を超える救急搬送を受け入れている。また、近隣の医療機関同士が競合関係にあると、住民に迷惑をかけるだけでなく、非効率な医療提供体制や医療スタッフの疲弊を招くとの考えのもと、近隣の同規模病院(落合病院)と、診療体制や今後の経営方針、医療情報についての情報共有を図り、いち早く「競争から協調」を実現した。広域的な視点では、副理事長を務める、平成18年6月設立のNPO岡山医師研修支援機構で、多くの病院の開設者や管理者、県行政職員、岡山大学教授、弁護士等が参加する「地域医療部会」(会員数約120名)を主催し、地域住民のための医療のあり方、医療ニーズにあわせた経営管理のあり方等について情報交換、意見交換を行い、地域医療構想が目指すところの医療機能の分化と連携の推進に多大な貢献をしている。更に、岡山大学や川崎医科大学等から医学生や初期臨床研修医を数多く受け入れるとともに、岡山県立真庭高等学校看護科、新見公立大学看護科、吉備国際大学理学療法学科等数多くの医療系学生の実習も受け入れ、医学教育・医師養成にも大きく貢献している。</p>	
政井 俊憲	山口県阿武郡 阿武町国民健康保険福賀診療所・所長
<p>昭和59年自治医科大学卒。卒業後約30年の永きにわたり、県内過疎地域の医療機関において情熱をもって勤務し、地域医療の確保・充実及び住民の健康福祉の増進に貢献している。昭和61年に、大島中部病院(現・周防大島町)で初めてへき地勤務、その後の平郡診療所(柳井市)勤務では、島でただ一人の医師であり、離島ならではの苦労も多々ある中、島民の医療確保、健康増進に努めた。平成5年からは、山間へき地診療所である現在の福賀診療所に勤務し、日常診療のほか、保健師・栄養士と協力しながら乳幼児健診、住民健診をはじめ、学校医として保育園、学校健診にも携わるほか、診療所便りを発行し、健康に関する情報を提供するなど、住民の健康増進に努めている。また、行政の医療・福祉関係委員として、国保運営協議会、地域福祉運営協議会等、多数の会議に参加し、地域医療の充実のために取り組んでいる。更に、約10年間阿武郡医師会の理事を務め、医師会活動にも尽力した。現在は、訪問看護師やケアマネージャー等と連携をとりながら、訪問診療やがん治療の病診連携の推進へ積極的に取り組んでいる。</p>	

樋口 定信	熊本県上天草市 上天草市立上天草総合病院・事業管理者
<p>昭和46年熊本大学医学部卒。昭和62年4月から上天草総合病院に副院長として勤務、平成2年9月には病院長に就任。訪問看護ステーション、老人保健施設、居宅介護支援センター等を併設し、医療・保健・福祉・介護を総合した地域包括ケアシステムを構築するためのハード面の整備・充実を図り、地域の医師会、福祉施設、社会福祉協議会、介護保険関連事業者及び行政等の機関との連携を深め、地域住民が住み慣れた町で健康で安心して生活できる福祉の町づくりを目指してきた。その結果、当院は、全国国民健康保険診療施設協議会から「地域包括医療・ケア認定施設」の認定を受けている。また、定期的にへき地診療所である御所浦北診療所、教良木診療所において診療を行い、周辺住民の健康増進に寄与している。平成19年6月に病院事業管理者に就任した後も、地域医療の確保のための医療活動を現在も続けている。長年に渡り地域医療の確保に尽力し、多大な貢献を果たしている。</p>	
馬場 宏敏	大分県中津市 中津市国民健康保険槻木診療所・所長
<p>昭和58年自治医科大学卒。義務年限終了後も、海岸部の佐伯市蒲江や山間部の中津市槻木など、県内でもとりわけ医療環境の厳しいへき地診療所へ自ら希望して赴任し、これまで通算29年間にわたり、へき地医療の最前線に立っている。現在の勤務地である中津市国民健康保険槻木診療所では、平成19年の着任以来、患者ひとり一人に寄り添った細やかな医療の提供に加え、専門の整形外科分野における高い評価により、人口が158人しかない槻木地区において、近隣市町村からの来院が増え続け、年間、延べ約7,900人もの患者を受け入れている。さらに、地域住民の健康づくりや疾病予防にも力を注ぎ、「健康づくりは、地域づくり」をコンセプトに、地域住民を対象とする健康教室の開催や、認知症医療の研修を修了した医師が登録される「大分オレンジドクター(もの忘れ・認知症相談医)」として、認知症患者や家族が気軽に相談できる体制を整えている。また、自治医科大学や大分大学等の医学生や臨床研修医を毎年積極的に受け入れ、プライマリ・ケアや地域包括ケア等について、これまでへき地医療の現場で培ってきた豊富な経験と知識をもって、熱心に指導を行っている。平成26年には大分大学医学部附属地域医療学センター臨床教授に就任し、大学と連携した医学生や研修医の教育にも注力している。</p>	